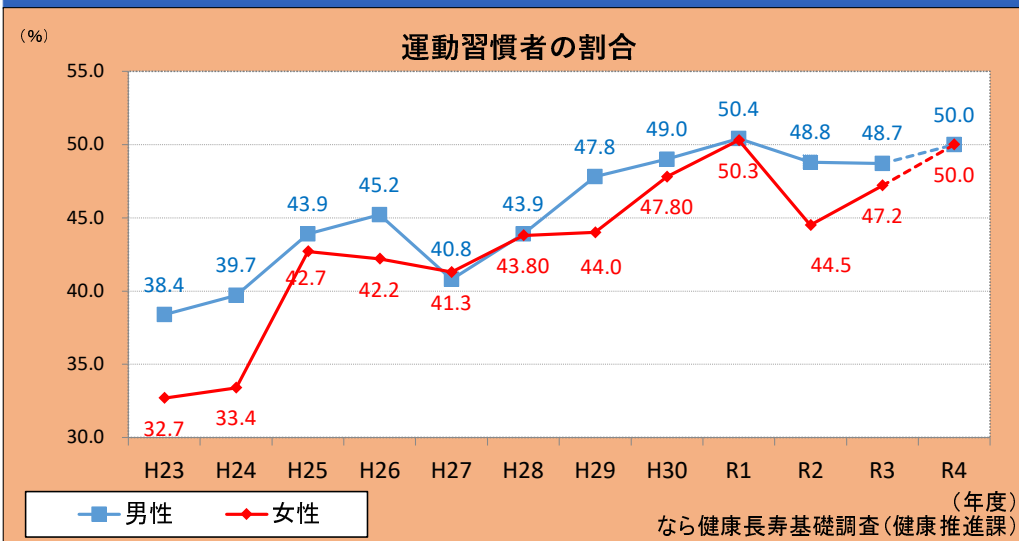


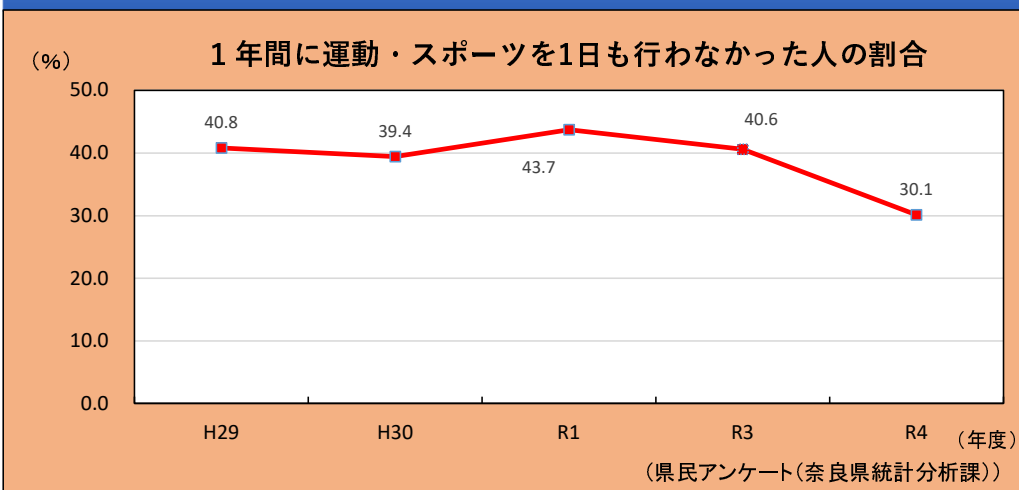
基本目標を実現するための参考指標

- 運動習慣者の割合については、令和元年度には目標数値に達したが、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響で減少。
- 年齢別に見ると、男女ともに働き世代・子育て世代の運動習慣者の割合が特に低い。（女性は20代～50代で男性よりも割合が低い。）
- 1年間にスポーツをしない人の割合は40%前後で推移していたが、令和4年度には30%まで低下しており、感染症による影響が未だ続いていると言える。

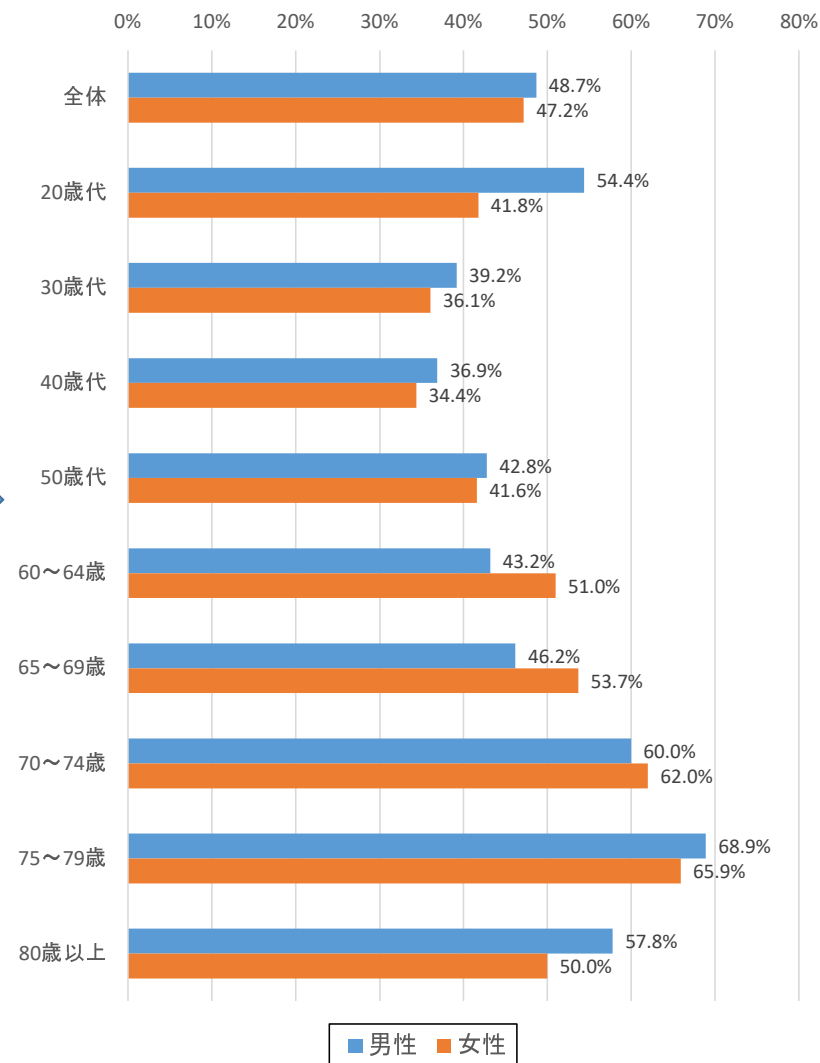
指標：1日30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施している人（運動習慣者）の割合



指標：1年間にスポーツをしない人の割合



R3年度 年齢別運動習慣者



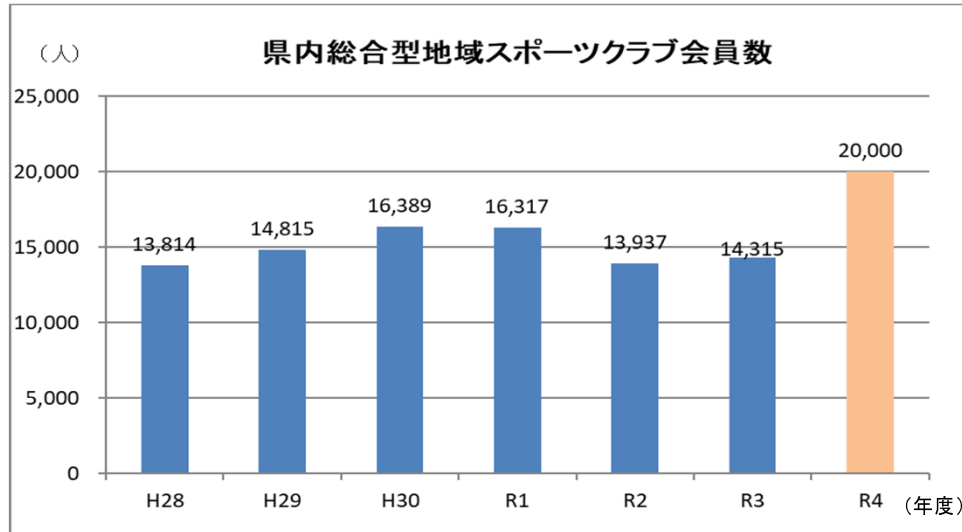
10、11ページ目に詳細を添付

奈良県スポーツ推進計画における指標の推移

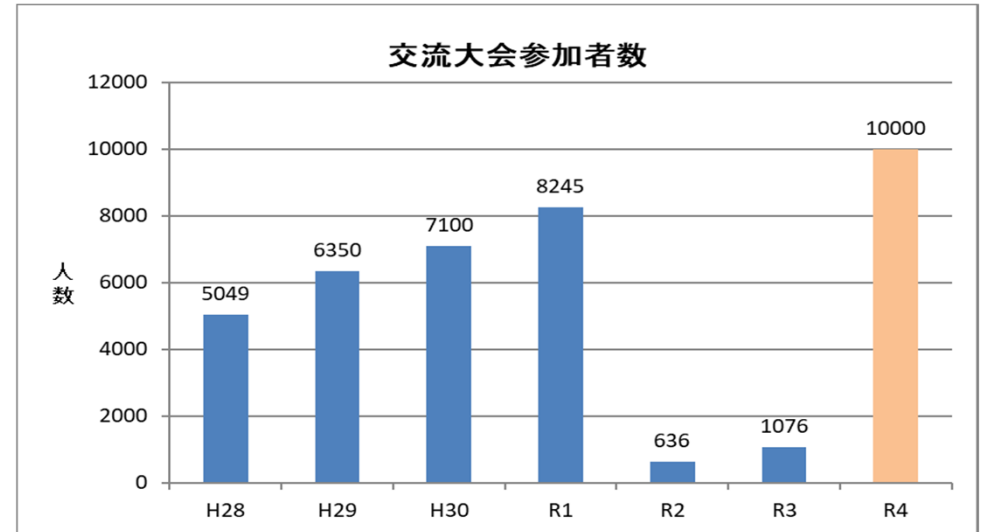
I. ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツの推進

1 だれもがスポーツに親しめるための地域スポーツの推進

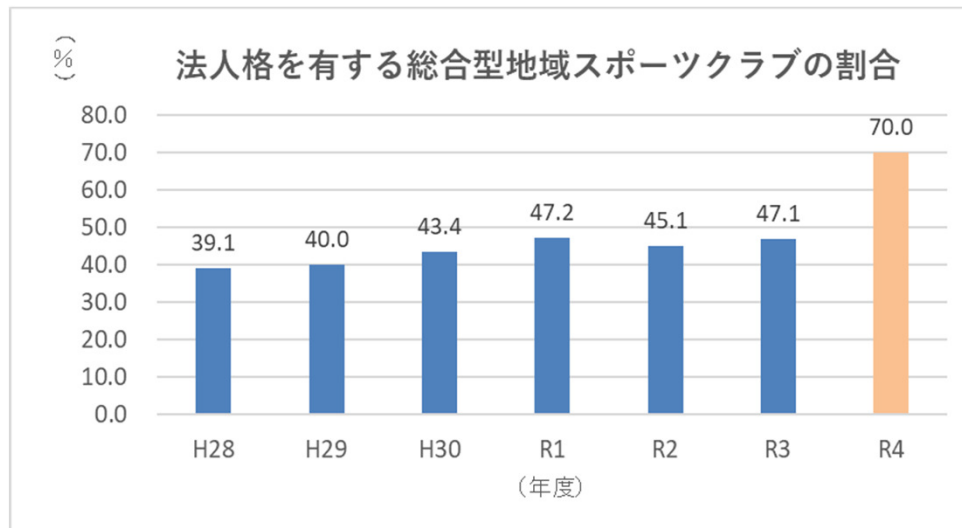
- 総合型地域スポーツクラブの会員数は、平成30年度には1万6千人台になったが、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度には1万3千人台まで減少。令和3年度には若干回復の兆しが見えた。
- 交流大会への参加者数は、目標値には達していないが、令和元年度までは右肩上がり推移。令和2、3年度は感染症の影響で大幅に減少。
- 法人格を有する総合型地域スポーツクラブの割合は、目標値には届いていないものの、令和元年度までは右肩上がり推移。令和2年度は2団体が脱退したため、若干割合が減少したが、45%台を維持。



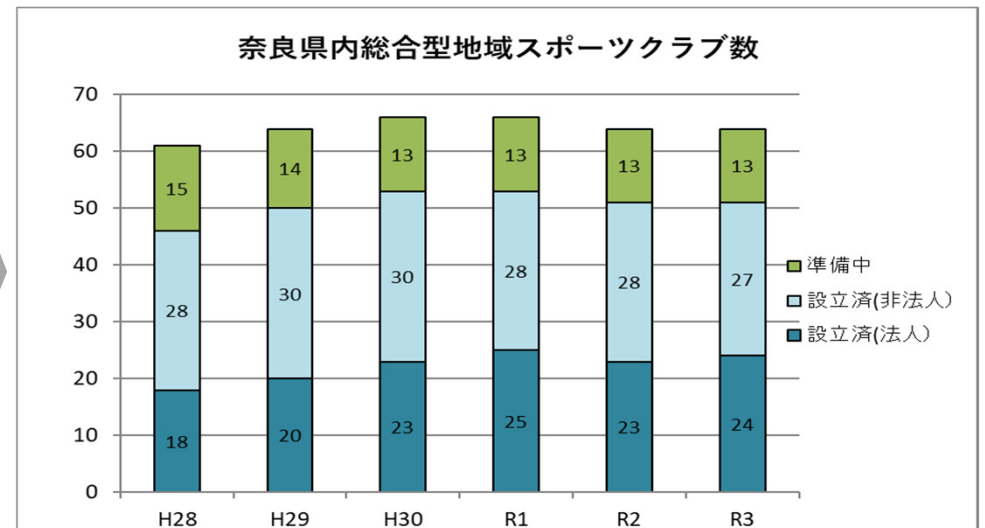
(奈良県スポーツ振興課調べ)



(総合型地域スポーツクラブ活動状況調査(文部科学省))



(奈良県スポーツ振興課調べ)



(奈良県スポーツ振興課調べ)

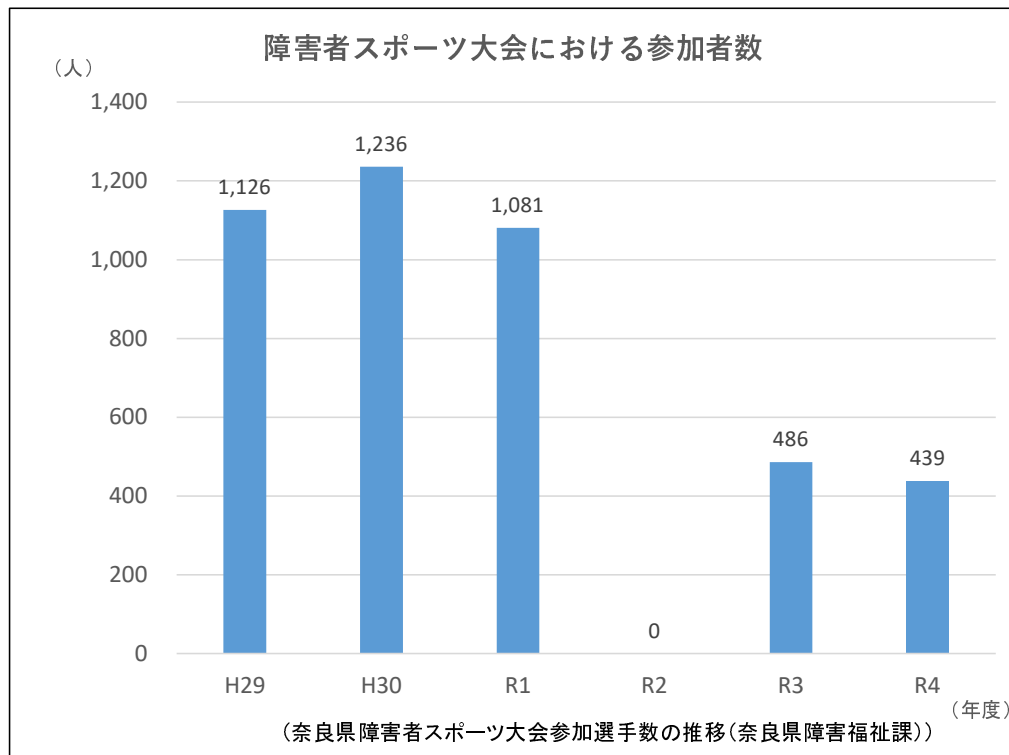
奈良県スポーツ推進計画における指標の推移

I. ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツの推進

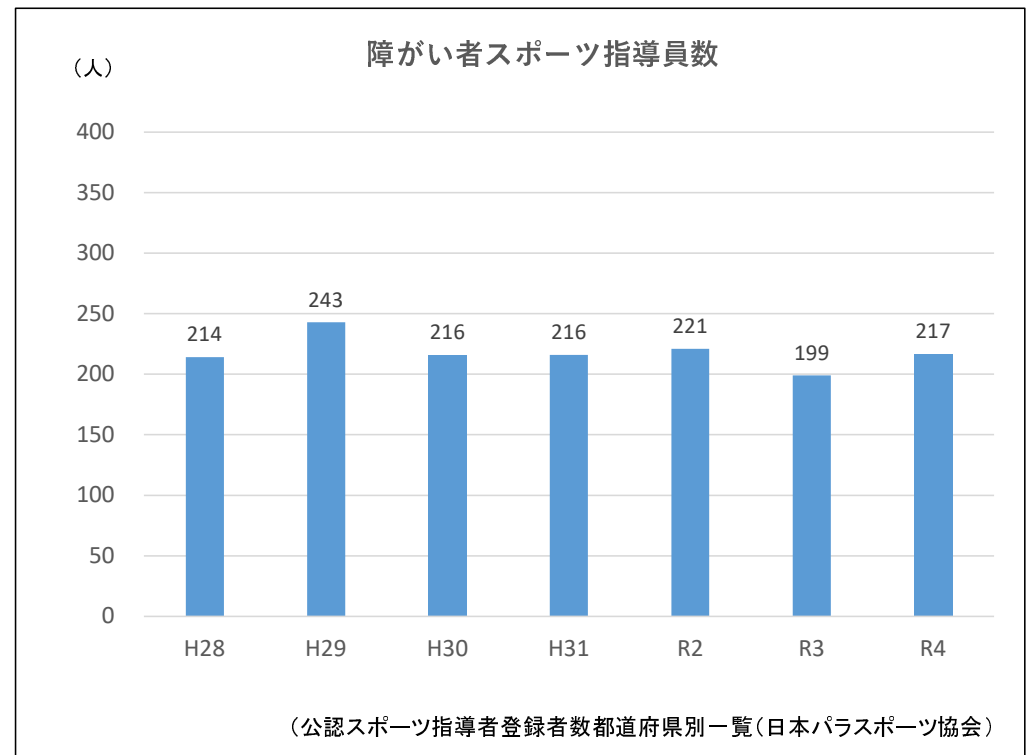
1 だれもがスポーツに親しめるための地域スポーツの推進

- 障害者スポーツ大会への参加者数は、平成29年度、30年度には目標値を上回ったが、令和元年度には主に身体障害者の参加が減ったことから減少。令和3年度、4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出場できる競技数にあらかじめ制限をかけて大会を実施したため、参加者数が減少した。
- 障がい者スポーツ指導員数は横ばいで推移しており、目標値には届いていない。

指標：障害者スポーツ大会における参加者数



指標：障がい者スポーツ指導員数（日本パラスポーツ協会公認）



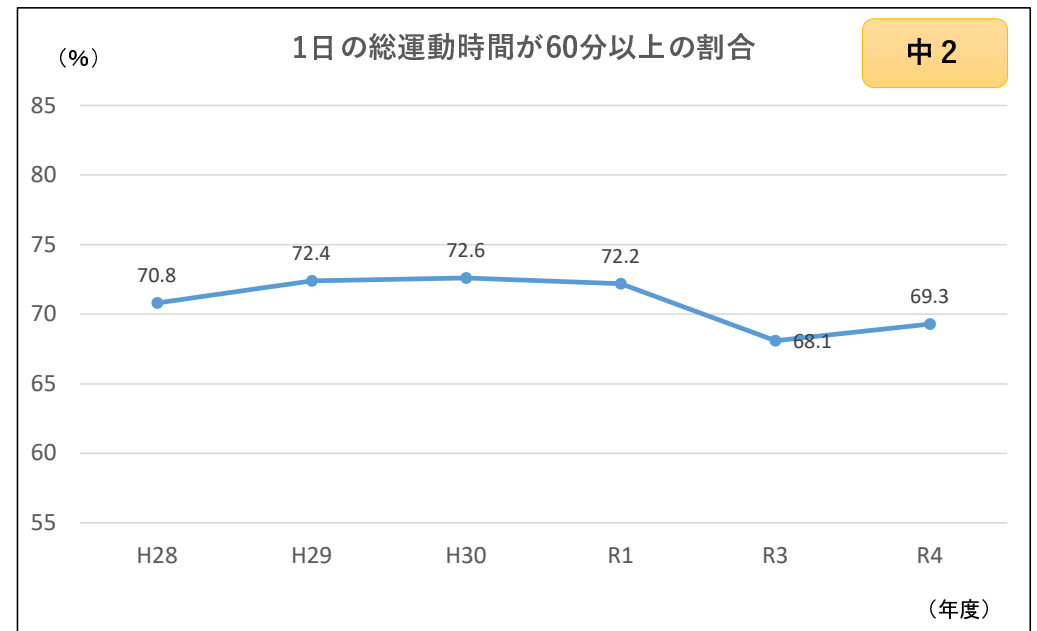
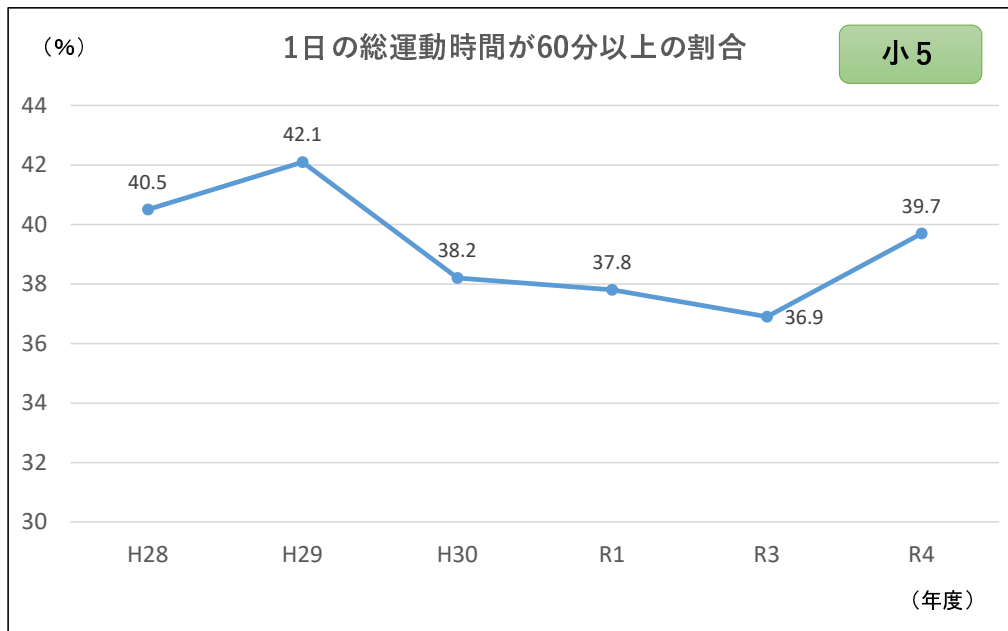
奈良県スポーツ推進計画における指標の推移

I. ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツの推進

2 子どもを健やかに育むスポーツの推進

- 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査中止。
- 毎日1時間以上の運動を行っている小学生の割合は、平成29年度以降は緩やかに減少が続いてたが、令和4年度に若干回復に向かった。
- 中学生の7割が毎日1時間以上の運動を行っている。令和3年度には感染症による影響で減少。

指標：1日の総運動時間が60分以上の割合



(全国体力・運動能力、運動週間等調査(文部科学省、スポーツ庁)から加工)

奈良県スポーツ推進計画における指標の推移

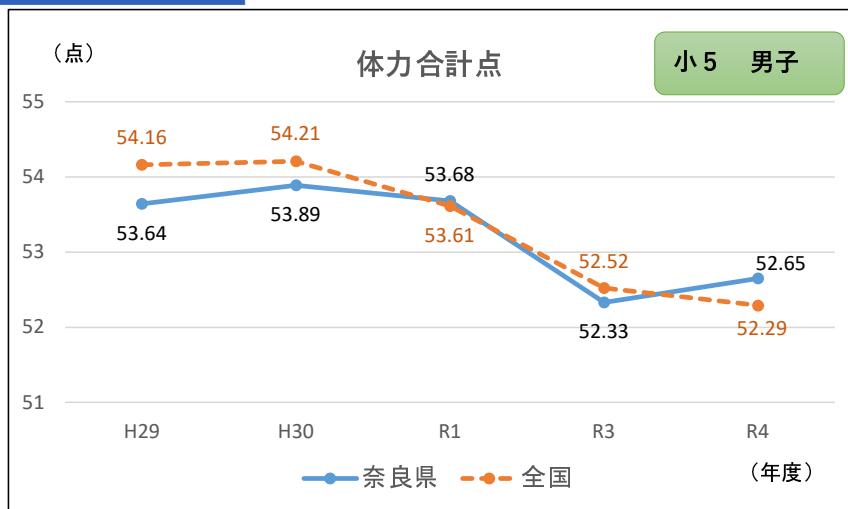
I. ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツの推進

2 子どもを健やかに育むスポーツの推進

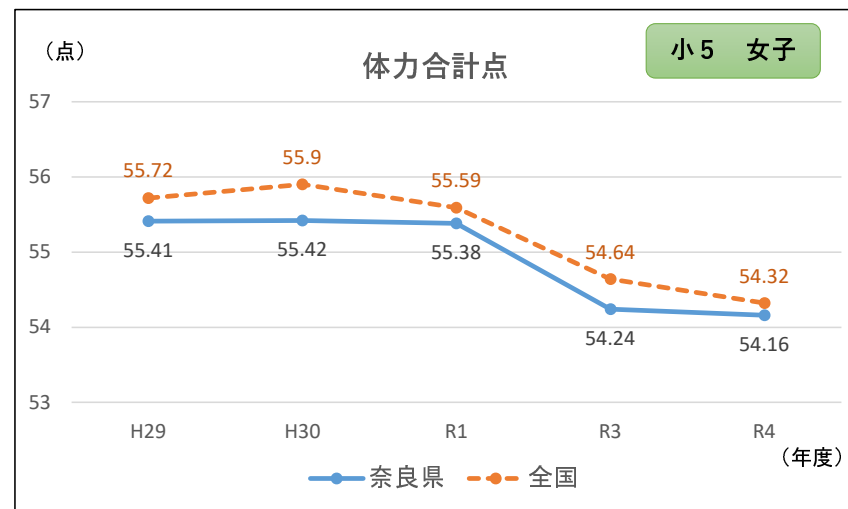
- 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査中止。
- 令和3年度以降の全国平均点は小学生、中学生とも前年度より大きく落ち込んでおり、感染症による外出自粛が体力低下に影響したと思われる。
ただし、奈良県の男子中学生は前年度より高得点を維持しており、常に全国平均を上回っている。
- 奈良県的女子中学生の点数は常に全国平均以下であったが、令和3年度以降は全国平均の落ち込み具合の方が大きかった。
- 小学生の体力合計点は、常に全国平均以下であったが、令和4年度は男子が上昇し平均以上、女子も落ち込みが小さく全国平均に接近した。

指標：子ども体力合計点

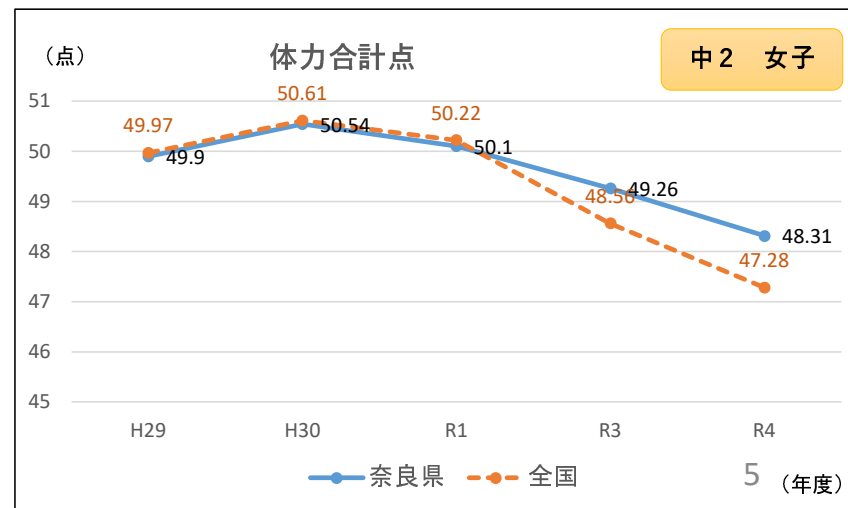
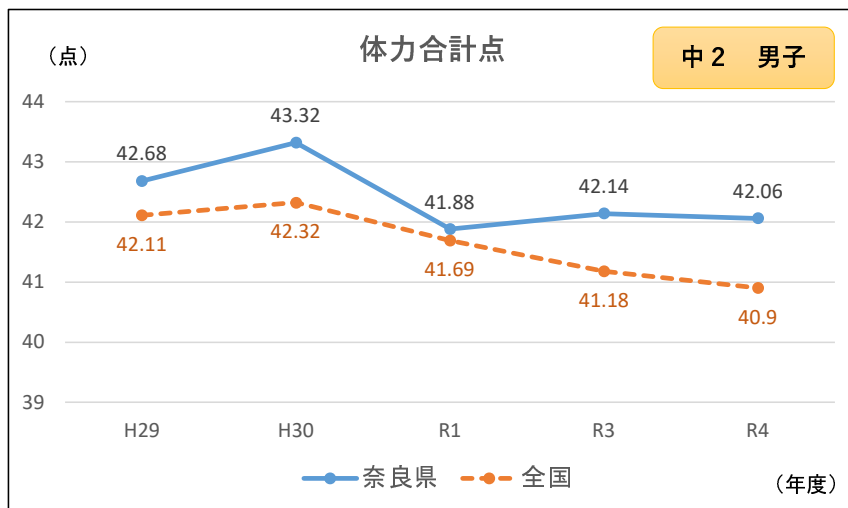
R4年度目標値⇒
全国平均以上
(男女共通)



(全国体力・運動能力、運動週間等調査 (文部科学省、スポーツ庁))



R4年度目標値⇒
全国平均以上
(男女共通)



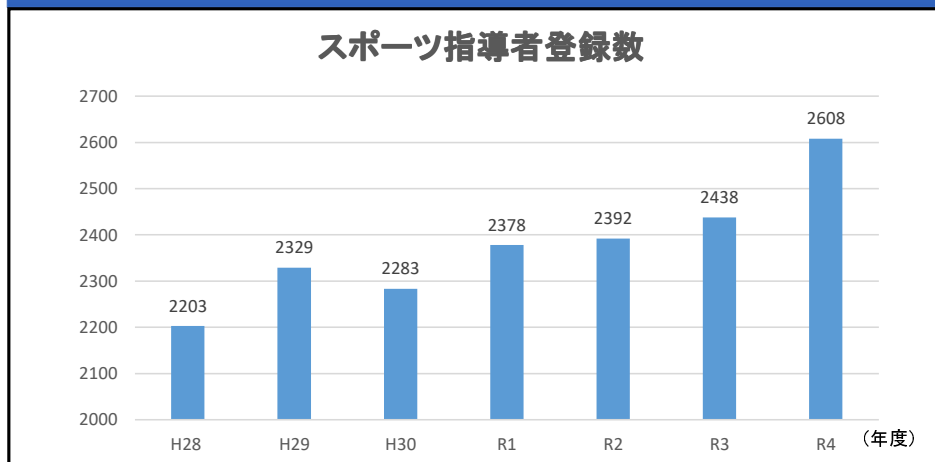
奈良県スポーツ推進計画における指標の推移

I. ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツの推進

3 県民に夢と感動を与える競技スポーツの推進

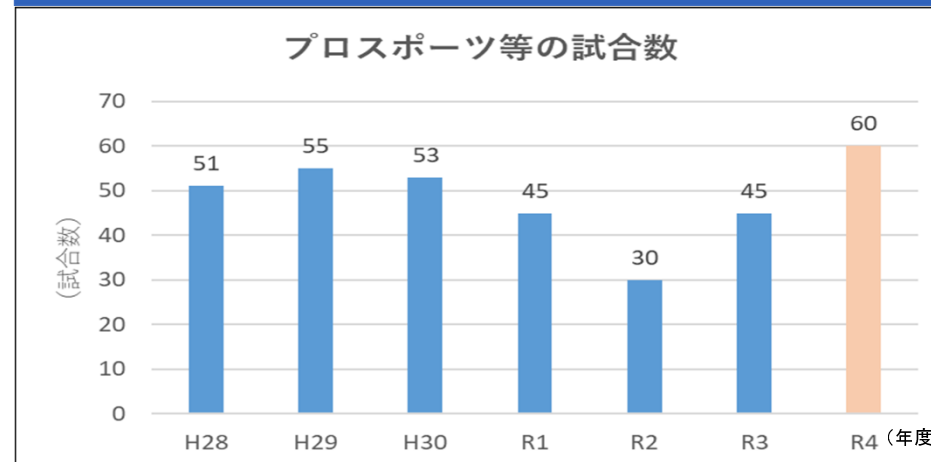
- スポーツ指導者の登録者数は、毎年上昇しているが、目標値には届いていない。
- 令和元年度～3年度のプロスポーツの試合数は、新型コロナウイルス感染症の影響により減少した。
- 令和2、3年度の全国大会1位の県選手の人数・団体数は、コロナの影響により多くの大会が中止となったため、減少した。

指標：スポーツ指導者（日体協公認）



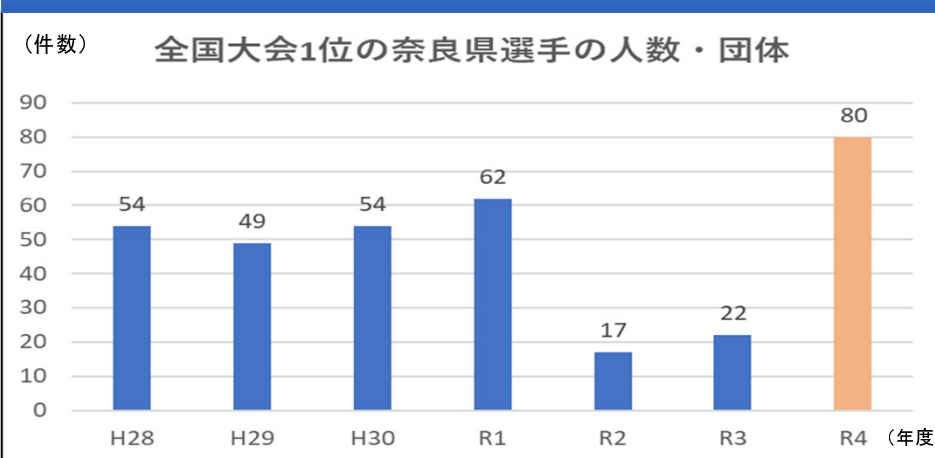
(日本スポーツ協会公認スポーツ指導者認定状況 都道府県別一覧
(公益財団法人日本スポーツ協会))

指標：プロスポーツ等の試合数（有料観戦）



(奈良県スポーツ振興課調べ)

指標：全国大会1位の奈良県選手の人数・団体数



(奈良県スポーツ振興課作成(奈良県スポーツ協会会長賞受賞件数より))

※件数は、スポーツ協会会長賞を受賞した人数及び団体数の計



奈良県スポーツ推進計画における指標の推移

I. ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツの推進

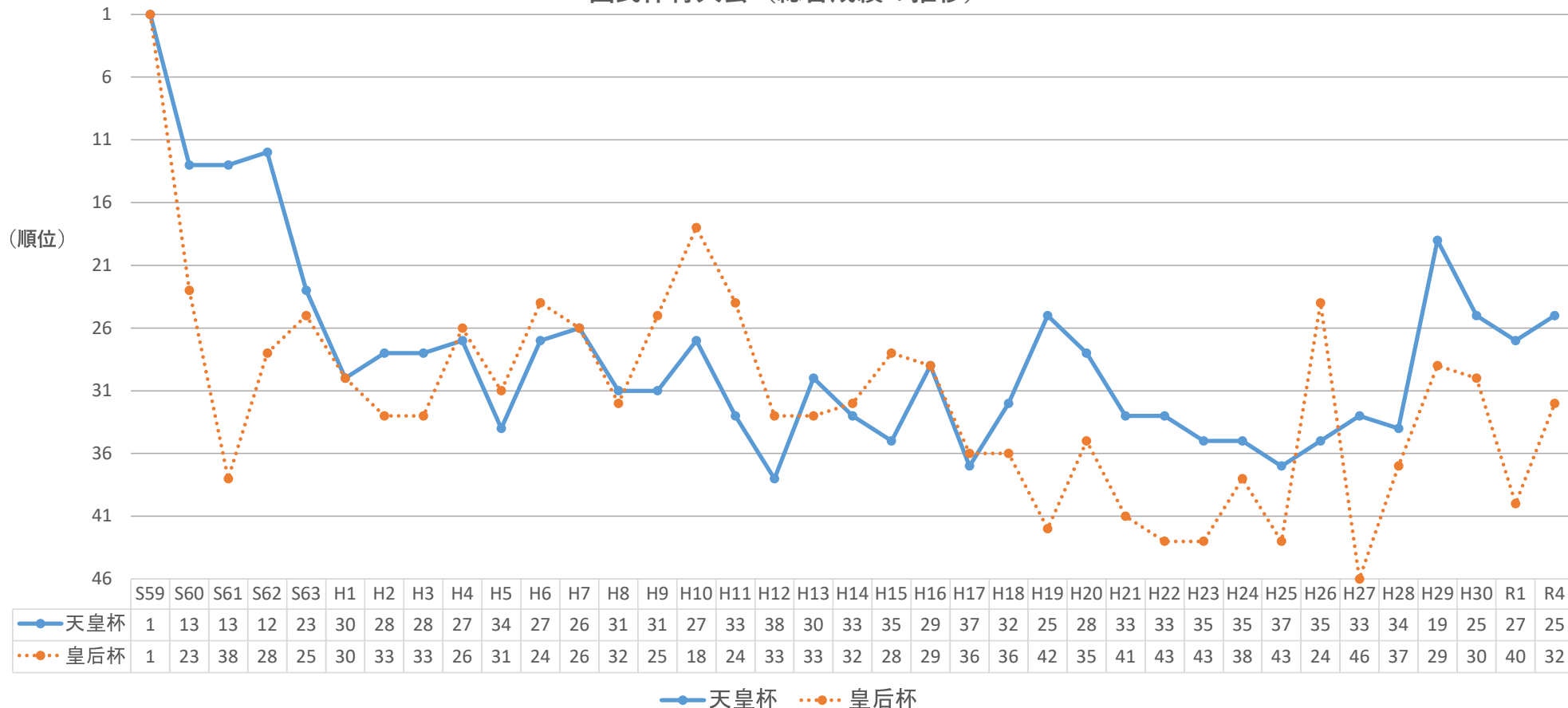
3 県民に夢と感動を与える競技スポーツの推進

- 令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響のため開催中止。
- 奈良県は平成29年度の天皇杯で30年ぶりに19位となり、以降も目標である20位台を維持している。

指標：国体の総合成績

令和4年度目標⇒20位台定着

国民体育大会（総合成績の推移）



I. ライフステージ・ライフスタイルに応じたスポーツの推進

4 スポーツ施設の整備・活用

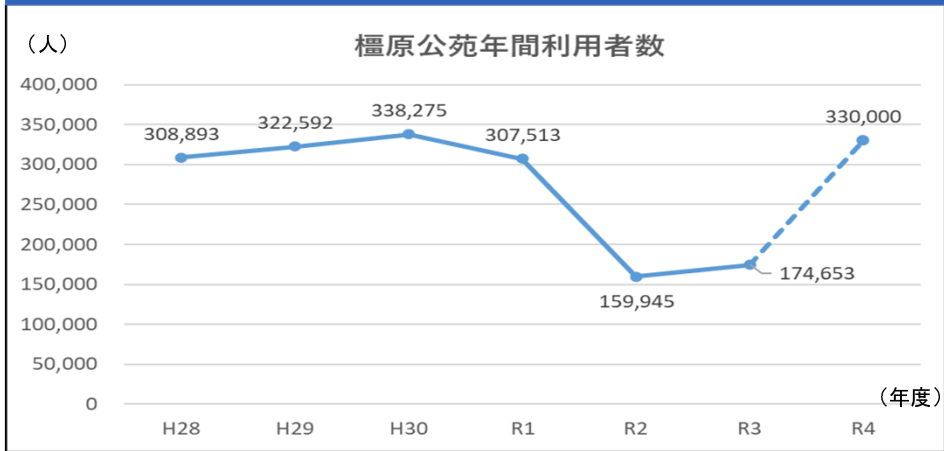
○令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の利用者数が減少。

(橿原公苑：R2年4/18～5/22の間施設を閉鎖。まほろば健康パーク：R2年4/18～5/24まで閉鎖（パーク内の施設ごとに多少の期間差あり）)

○コロナの影響前は、橿原公苑の年間利用者数はおおよそ30万人台で推移しており、平成30年には目標の33万人を上回った。

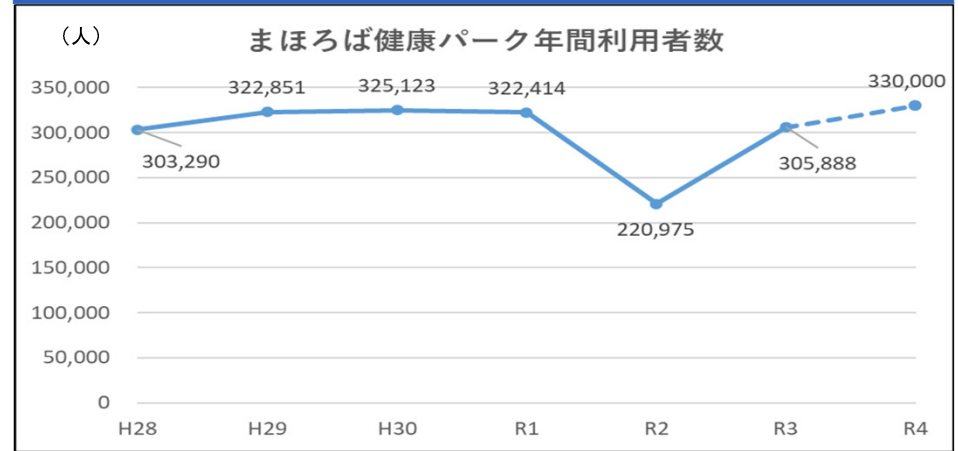
○まほろば健康パークの年間利用者数も、おおよそ30万人台で推移しているが、目標の33万人には達していない。

指標：橿原公苑年間利用者数



(橿原公苑調べ)

指標：まほろば健康パーク年間利用者数



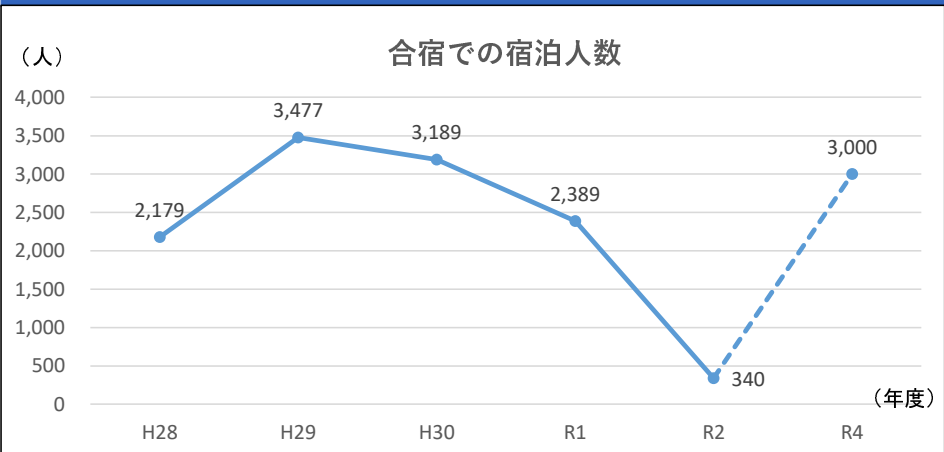
(奈良県公園緑地課調べ)

II スポーツを通じた地域振興

1 スポーツによる地域のにぎわいづくり

○合宿でスイムピア奈良に宿泊する人の人数は、平成29年度と30年度には、目標であった3千人を超えた。

指標：スポーツ合宿でスイムピア奈良を利用する人数



(奈良県スポーツ振興課調べ)



県民アンケートより分析

コロナウイルスによる運動・スポーツへの影響

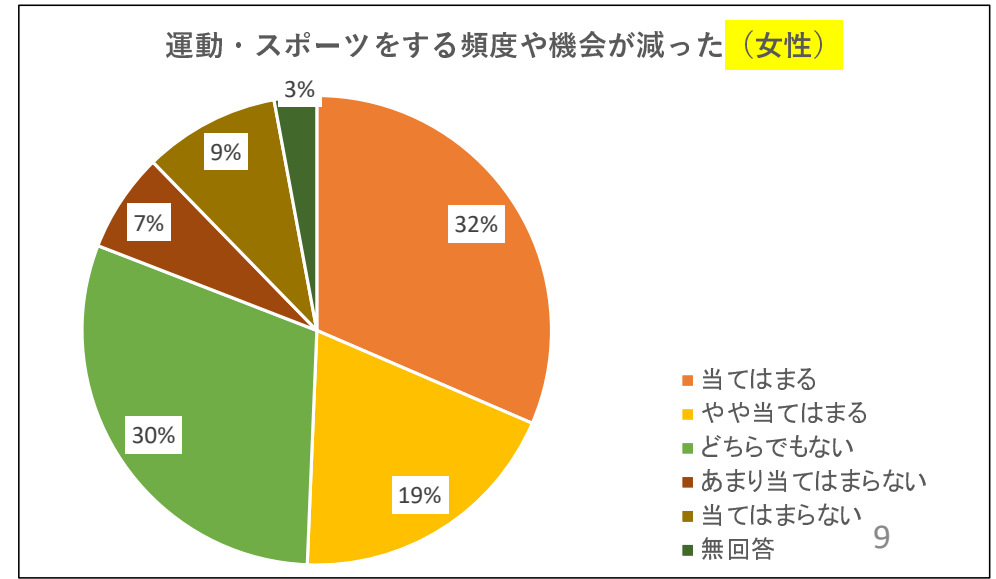
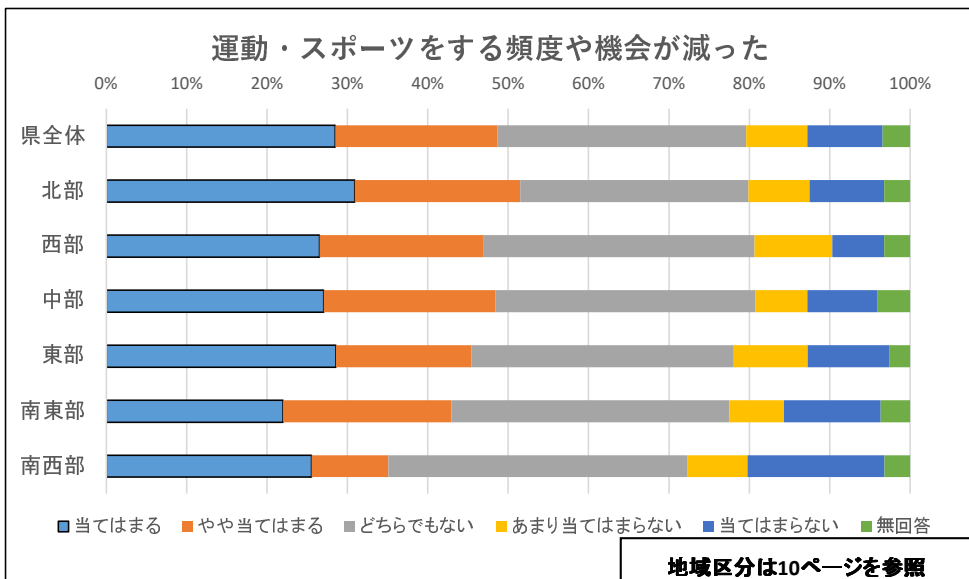
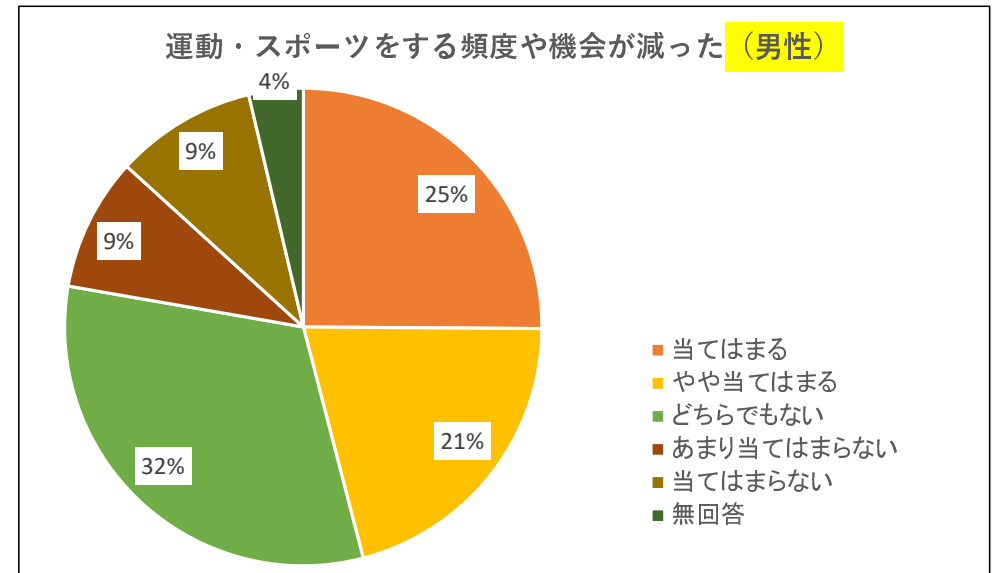
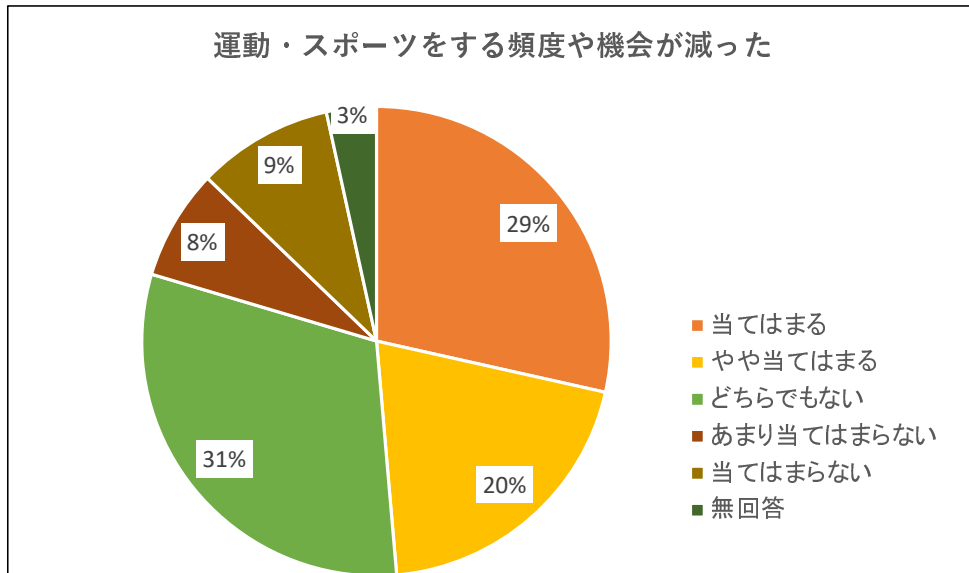
R3年度結果

※コロナの影響に関する質問を行ったのは、R3年度のみ

- 新型コロナの影響により、運動・スポーツをする頻度や機会が減ったと回答したのは、北部の方が多い。
- 新型コロナの影響により、約50%の人が運動・スポーツをする頻度や機会が減ったと回答。その割合は男性より女性の方が高い。

アンケート項目：運動・スポーツをする頻度や機会が減った

(令和3年度県民アンケート(奈良県統計分析課))



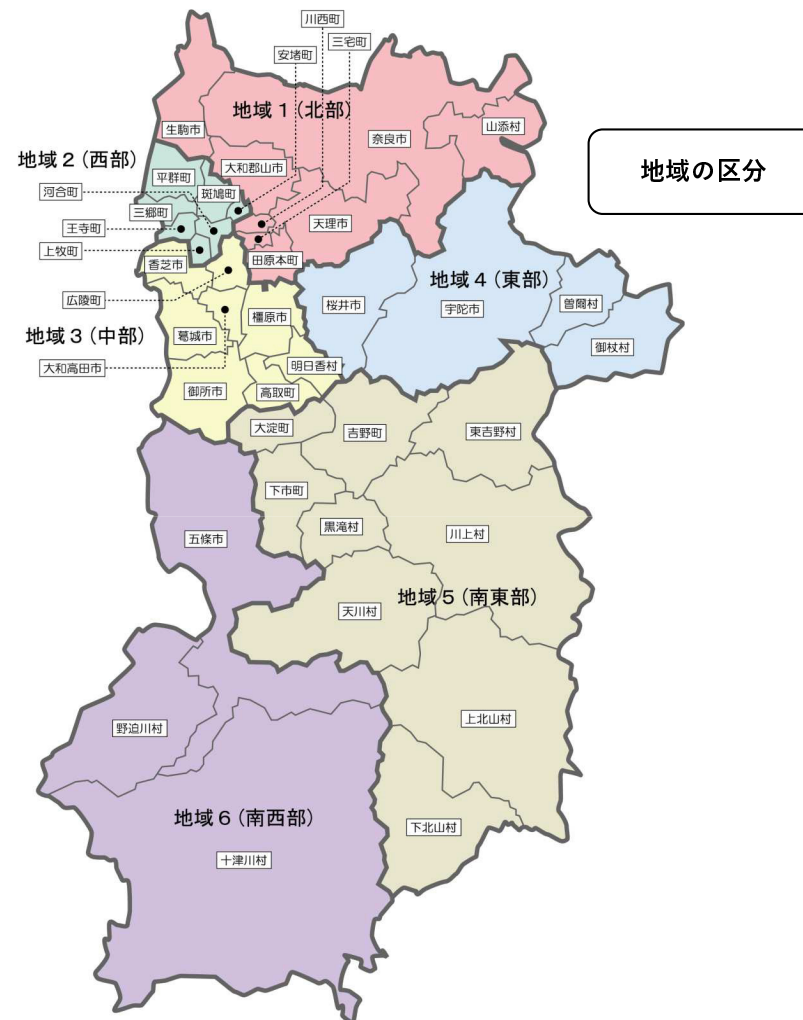
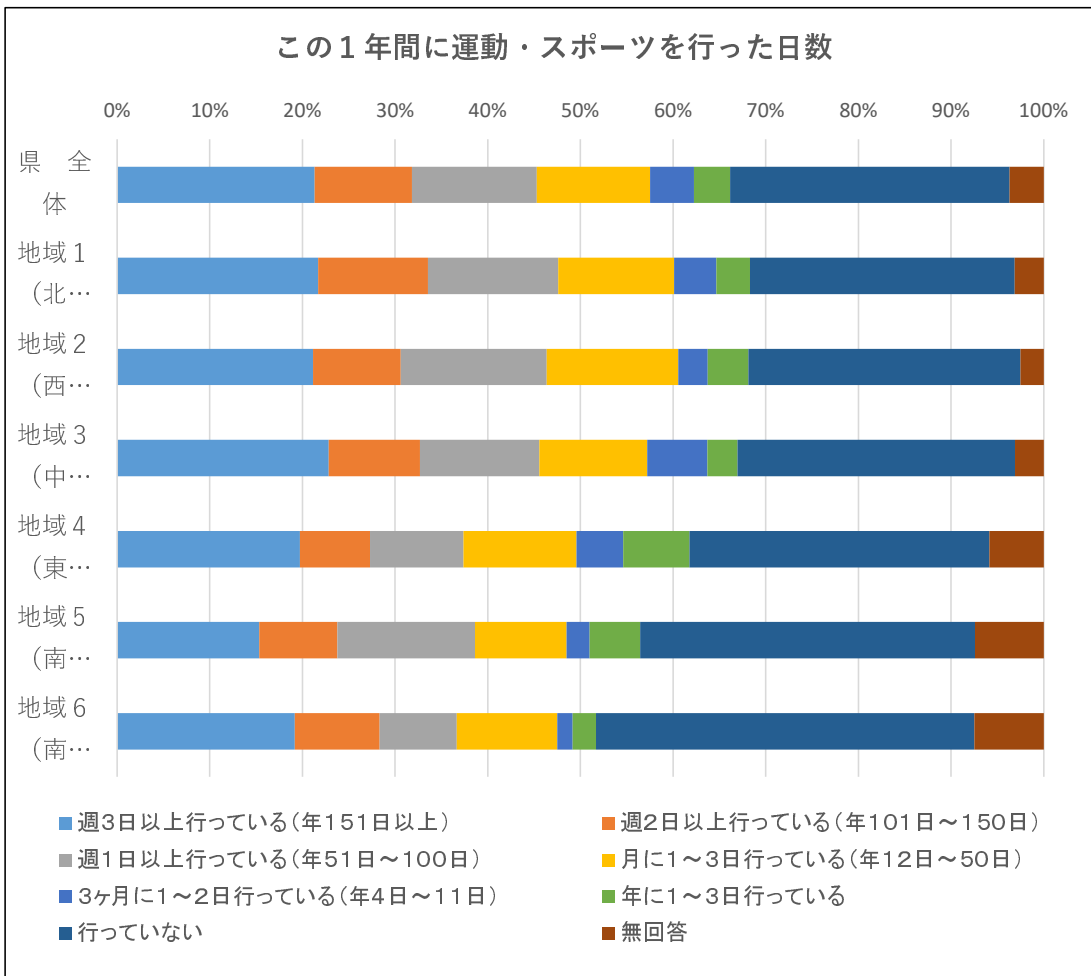
県民アンケートより分析

運動・スポーツを行った日数

R4年度結果

○1年間に運動・スポーツを行っていない割合は、県全体では30.1%であり、また、南部地域の方がその割合が高い。南東部は36.1%、南西部は40.8%。

アンケート項目：この1年間に運動・スポーツを行った日数



(令和4年度県民アンケート(奈良県統計分析課))

県民アンケートより分析

行った運動の種類と、運動を行っていない理由

※「運動を行っていない人の理由」についての質問は、R4年度は実施していない。

- 運動実施者の運動種類は、どの地域においてもウォーキングが多く、70%程度となっている。
地域差はあまり見られない。北部74.4%、西部71.3%、中部70.7%、東部66.0%、南東部66.7%、南西部69.4%
- 運動を行っていない人の理由は、「仕事や家事が忙しいから」が、38.2%と一番高い。
(北部36.4%、西部39.1%、中部41.1%、東部43.5%、南東部29.9%、南西部44.2%)
「生活や仕事で体を動かしているから」が次に高く、24.7%。
(東部36.5%、南東部31.0%、南西部36.5%と南部東部地域が特に高い。)
「場所や施設がないから」は、北西部地域に比べ、東部16.5%、南東部12.6%、南西部17.3%と高い。

